

マイブんだより

平成24年6月25日 第3号

発行 都城市教育委員会事務局

文化財課

○ 6月1日に山田小学校で出前授業・体験学習会を開催

明道小に続く2校目で、初めての開催です。テーマは、「米づくり」。6年生と、まだ歴史を習



っていない5年生も一緒なので、米づくりについて、昔と今を比較しながら授業を行いました。

日本の稲作の始まりから話を始め、子どもたちに問いかけたり、DVD映像を見ながら進めます。米作りは、2500以上年前に北部九州に伝わり、米づくりが始まった時代を弥生時代ということ、そして当

時の村の様子や人々の暮らしぶりなどを、イラストを使って説明していきました。では、都城の米づくりはいつからでしょう。これは、私たちのPR不足もあって、知っている人は少ないと思いますが、南横市町の「坂元A遺跡」で、北部九州とあまりかわらない頃の水田跡が見つかり、この頃から米づくりが始まっていたことがわかっています。



次に、山田町についてのお話です。小学校の近くには2000年くらい前の弥生時代の遺跡があり、そしてそれより古い縄文時代の竪穴住居も見つかっていて、山田町には古くから人が住んでいたことがわかります。そして、山田小学校は山田城という中世のお城があった場所にあることも話しました。より身近な歴史を感じてもらえるとうれしいですね。

そして、米づくりの一年のスケジュールに沿って弥生、江戸、現代の道具や米づくりの方法を比較しました。石器を使っていた時代から、機械化した現代まで、道具の進化とともに米の収量も増え、人口も増加したことを学びました。最後に、都城で出土した弥生時代の米づくりの道具（木製の鋤や石庖丁）を見たり、触ったりし、また学校にある唐箕、千歯こきなどを使ってみました。この時が一番生き生きしていました。



米づくりひとつにも、永く大きな歴史があることを知ってもらい、その上に現代のくらしがあることをわかってもらいたいと思いました。後日、山田小の子どもたちから、授業に対するお礼の手紙がたくさん届きました。この授業をきっかけに、歴史や米づくりに興味を持った子も多かったようです。